

看護ケアとユマニチュード

本学では1年次から4年次の4年間を通して、「ユマニチュードの技法」を取り入れた看護ケアを学びます。

ユマニチュードって？

ユマニチュードは、フランス発祥の知覚・感情・言語によるコミュニケーションに基づいたケア技法です。「あなたは大切な存在です」というメッセージを相手が理解できる形で伝えることにより、実践者や家族は、高齢者や意思疎通の図りにくい方々との良い人間関係が築けることを実感しています。本学では、ユマニチュードの歴史と哲学、ケア技法を体系的に学ぶ事ができ、考案者のひとりであるイヴ・ジネスト氏から教授いただく機会も設けています。



授業に取り組む様子



1年生～3年生では、ユマニチュードの歴史と哲学を学んだ後に、4つの柱である「見る」「話す」「触れる」「立つ」の技法と、相手との良い関係を結ぶための「5つのステップ」について、理論と実践を学びます。

授業では、ユマニチュード認定インストラクターの資格を持つ本学教員と研修を受講した専任教員、非常勤講師が学生指導にあたります。左の写真は、インストラクターの資格を持つ、本学の岡本恵里教授が指導をしている様子です。



4年生では、事例を用いた看護展開を行います。事例患者の全体像を看護の視点とユマニチュードの視点から捉え、その人の意向や価値観を尊重した援助方法について、グループで話し合います。授業最終日には、立案した援助方法について4年間の学びを活かしながらユマニチュードの技法を取り入れたロールプレイを行います。

左の写真は、患者の情報を書き出して全体を俯瞰することにより、関係性を整理している様子です。インストラクターの資格を持つ、本学の青柳寿弥准教授が指導しています。